

## 2017 年度第 3 回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2018 年(平成 29 年)1 月 13 日(土曜日) 14:00~21:00

開催会場：栃木県日光市光徳温泉 日光アストリアホテルセミナールーム

議事録作成者：広報部長 坂野 翔哉（東京理科大学）、広報部員 山川 登（東京大学）

### 議題

1. 普及新歓活動について(新歓フライヤーについて、新歓サイトについて).....	3
2. 秋インカレについて .....	4
3. セレ運営について .....	10
4. 全日本大会とロングセレについて .....	13
5. 加盟校費について .....	16
6. 事業計画について .....	17
7. 技術委員会の今後について .....	17
8. 学連発足 35 周年に向けて .....	18
9. 後援大会申請について .....	19
10. 理事会報告 .....	19
11. 各部局活動報告 .....	19
12. 地区学連活動報告 .....	20
13. 次回幹事会について .....	20

## 出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
木村 佳司	理事	山口大学卒
糸井川 壮大	ICSL2017 実行委員長	京都大学卒
瀬川 出	幹事長	東京大学
成澤 春菜	副幹事長	フェリス女学院大学
竹内 公一	会計	名古屋大学
矢野 峻平	事業部長	大阪大学
坂野 翔哉	広報部長	東京理科大学
山川 登	広報部局員	東京大学
吉澤 佳奈	事務局長	日本女子大学
久野 公愛	次期事務局部長	日本女子大学
堀江 優貴	渉外部長	東北大学
臼井 沙耶香	普及部長	東北大学
塩平 真士	会計監査	北海道大学
佐藤 遼平	会計監査	東京大学
丸山 真輝	北東学連幹事長	東北大学
林 俊充	次期北東学連幹事長	岩手県立大学
小山 友綺	北信越学連幹事長	金沢大学
山下 政泰	次期北信越学連幹事長	新潟大学
上野 康平	関東学連幹事長	東京工業大学
西嶋 就平	東海学連幹事長	名古屋大学
南雲 裕貴	次期東海学連幹事長	名古屋大学
遠藤 匠真	関西学連幹事長	大阪大学
藤本 拓也	次期関西学連幹事長	京都大学
山本 徳高	中九四学連幹事長	岡山大学
下江 健史	次期中九四学連幹事長	広島大学

## 1. 普及新歓活動について(新歓フライヤーについて、新歓サイトについて)

## 要旨

新歓フライヤーのデザイン募集については期限を延期し、募集がなければ外部に依頼する予定となった。日本学連のサイト内に新歓用ページを作成した。大学にクラブがない新入生向けに、各地区学連で新歓用アドレスを機能させ、新歓ページに掲載することとした、

木村	新歓フライヤーのデザイン案を募集中だが、現状で案は提出されていない。学生主体での作成を望むが、案が出ないようであればプロの伝手もある。各校の認可の関係で 2 月の末までを目安に原稿提出が必要である。昨年の具体的な効果も未確認だが、2 万部という多数の配布ができた。
坂野	次の代の新歓が組織されていない時期なので、具体的に新歓フライヤーに意識が向く状況にない。期限を延ばすことは可能か。
木村	1 月の終わりまで納期を延ばすことは可能。それまでに応募が無ければこちらの伝手でプロに依頼する形を取る。
瀬川	締め切り期限を 1 週間程度伸ばす。各大学で再度周知を行ってほしい。
木村	ML などでも促してもらって反応がなければ次の手段にうつる。
坂野	HP 更新について、「日学 top>普及支援活動>新歓ホームページへのリンク集 ( <a href="http://www.orienteering.com/~uofj/?blogid=1&amp;catid=10&amp;itemid=1276">http://www.orienteering.com/~uofj/?blogid=1&amp;catid=10&amp;itemid=1276</a> )」を作成した。各大学の new 歓ページへのリンク一覧ページとして作成しているので、各大学で該当するサイトを教えてほしい。
瀬川	新歓フライヤーにこのページのリンクを掲載し、それを見て各大学新歓サイトにアクセスする、という形が主になると思うが、所属する大学にクラブがない人の受け皿としても機能させたい。加盟校でない大学の新生に対して、各地区学連で対応することは可能だろうか。現状、各地区学連に新歓担当は設置されていないが、連絡が来た際に近くの大学を紹介するような形は可能か。
吉澤	各地区学連に事務局のメールアドレスがあるのでそれを利用すれば良い。関東・東海・関西は事務局が機能しているはず。北東・北信越・中九四は機能していないが、各幹事長が代わりを担っている。
坂野	各地区の事務局アドレスを新歓ページに記載する。事務局長でなくともいいので、各地区学連でそのアドレスの担当者を設定し、新歓に対応してもらおう。
坂野	事務局アドレスが引き継がれていない地区学連に関しては、再度利用可能となるよう広報部の方で対応する。
瀬川	各地区学連次期幹事長は、新歓用にアドレス管理者を決めておいてほしい。
瀬川	新歓ページに関して、追加であったら良いと思うようなコンテンツの要望があれば伝えてほしい。それに応じて、随時アップデートしていけば良い。
坂野	新歓ページに掲載するのは Twitter や Facebook へのリンクなどでも構わない。

	新入生向けの情報をリアルタイムで動かしているものであれば媒体は問わない。また、木村さんへのお願いになるが、 <b>Orienteering.com</b> にこの新歓サイトのリンクやバナーを掲載していただくことは可能か。
木村	目立つところに載せたいと思う。バナーのデザイン等は広報部にお問い合わせする。
吉澤	来年度の新入生向けに新歓サイトについてアンケートを取ったほうが良いか。
瀬川	クラブ内にて口頭で感触を聞いてみるぐらいに留めれば良いと思う。
木村	サイトを見てもらうことは主眼でない。むしろ、加盟員の増加等のデータに着目すべき。少なくとも、昨年のフライヤーが何万人にも渡ったということは成果であり、モチベーションになるのではないか。
瀬川	各大学で新歓サイトへリンク掲載を行い、新入生を増やしていきたい。

## 2. 秋インカレについて

### 要旨

スプリントに関する参加費や運営方法や観戦の枠組みは開催地によって不確定で黒字化のために値上げはやむを得ない。一般クラスの参加者を増やすことと、競技者のリテラシーの向上、ノウハウ蓄積を課題にしたい。観戦を盛り上げるための意見を募集しつつ、実行委員会の実現可能な範囲で改善していく。

瀬川	山川さんの到着が遅れている関係で、会計に関わらない部分の話から先にお問い合わせする。まず秋インカレの会計的持続について話をする。
成澤	(【資料 1】秋インカレ幹事会回答資料)を参照してほしい。
糸井川	質問は 2 点あり、資料内で回答した。 1 点目が今年度スプリントの会計はどの様なものになったか。また黒字が今後維持(実現)可能か。2 点目が選手権の人数を増やすとなると運営負担はどれほどのものか。  2 点目について、幹事会案では、男子 20 増、女子 10 増を検討しているとあったが、選手権参加者増だけでは一般の部の人数が選手権に変わるだけで大きな黒字貢献にはならない。実行委員会であった黒字増加策を述べるが、場所に大きく依存する。一般の方が少ないリゾート施設であれば制約小さく実現が簡単。対して今年度は会場の小学校の利用の制約によって選手権スタートの時間制約があった。  また、今年度は立入禁止への侵入などによる失格者が多数あり、選手権で男女計約

20 名、一般はさらに多かったが詳細な人数は不明。涉外リスクを考慮し、選手権参加者増は避けたい。市街地スプリントでは特に民家が多く、境界も曖昧となり運営は難しい。参加者だけでなくスプリント競技の運営ノウハウはまだ不足している。前年度運営者をアドバイザーとして迎えてノウハウ継承はしているが、参加者運営者ともにまだ安定化していないので、現時点での参加者増は厳しいと感じる。人数増加のためには全体の競技リテラシーの向上を願う。無理に枠を増加させても競技成立を保証できない。スプリント競技自体への理解が薄いと感じる。

黒字策や改善点を述べる。

- ・参加費増額

参加費増額の目安について、運営者に負担がないように設定するためには運営側が行うべき。学生からの要求競技レベルに相応の参加費を提示させてほしい。運営者の経費削減は限界。開催地によって運営者確保の負担も増加し、参加費も上がるのを許容してほしい。

- ・一般クラスの充実

参加者を増やして収入増加に繋げる、選手権増よりも効果があると思われる。30 秒、15 秒間隔スタートなどいろいろな無理をしているが、一般クラスの参加者が ICS の存続を保っているという認識、理解をしてほしい。

- ・一般(社会人)増加

公認 S 大会併設など。運営者は増やさざるをえないが、地図や競技レベルは最高峰であり、参加する魅力がある。

- ・開催時期を連休などに固定

- ・予選決勝方式(選手権資格増)、敗者復活(ボーダーから数人で再セレ)

運営者の思いつきだが、面白いと思った。規約の壁や運営負担はある。

- ・スプリント競技の魅力浸透

選手権層に限定の現状であり、それ以外の一般学生の観戦意欲が低い。ICS のみがスプリント価値が担保される唯一のもの、という現状は良くない。同レベルの大会、練習会を開催し、学連合宿や学連から働きかけて練習会、大会により魅力浸透して欲しい。現状はパーク O ばかり。

補足説明

- ・競技リテラシーの向上

具体的には立入禁止への侵入、道路に飛び出すなど競技中止のリスクは負いたくない。スプリントの再競技は困難である。

- ・スプリントへの運営者の不十分な競技理解

	<p>青黄テープ張りなどの甘さ、競技者に配慮したつもりでも万全とはならなかった部分があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コントロールガード</li> </ul> <p>今回が初。横断箇所、交通整理等は運営者が行った。市街地の特性より全コントロールに配置。一次募集では1年生が多かったが上級生優先で配置した。2次募集で人数に達した。</p>
瀬川	<p>選手権を走る層にとって参加費が高いという印象は薄い。一般クラス参加者にとって参加費が高いという印象が強いとアンケート結果から分かる。15秒間隔などで不満は出ている。</p>
糸井川	<p>クラス分割により1分間隔でも参加者増を見込める。クラスの分割をしない方針というわけではなく、今年はコントロール数を増やさないためにコースを増やさなかった。またリスクが高いため一般クラスでは小径をすべて封鎖した。</p> <p>選手権を先に出走するのであれば、一般クラスでトラブルでも選手権競技の不成立は防げる。</p> <p>一般クラスのスプリントの出走意欲はどうすれば人数が増えるか、参加意欲をかきたてる要因を明確化し運営に共有したい。この場で何か意見はないか。</p>
成澤	<p>インカレという名称担保。プランナーの質担保。ICSのプレミアム感イメージ。通常のスプリント大会とは一線を画すという特別感を広められないか。</p>
佐藤	<p>今年は選手権出走後に一般が出走だと一般にとってはモチベーションが低下する。一般で自分が走ったコースをどうやって選手権で走るのが見えるのは面白いと思う。昨年では、会場周りの応援をする甲斐があり選手権出走後も楽しめた。併設にもインカレ感を求めたい。</p>
糸井川	<p>会場レイアウトが影響するとは思いますが、いまは観戦エリアを限定したアリーナ型の会場を継続している。ビジュアル地域の保証があると良いかもしれない。</p> <p>求められるインカレ感を具体化してほしい。常に学生側からの視点を運営に共有できるようにしてほしいし、そうしていけたらと思う。</p>
瀬川	<p>演出の良かった部分について、アンケートを取ることはできる。質問は学連と実行委員会のどちらが考えるか。</p>
糸井川	<p>学生側で演出の評価含めた記録を貯めておけるようにしてほしい。運営側だけで完結しているのが現状だが、運営者は毎年異なる。今年も観戦を盛り上げるためにドローンカメラの利用を検討したが、見せ方にはトラックビジョン(大画面)が必要となり、GPSベストとともにそちらを優先した。いろいろな演出方法があるが、各競技に適した演出方法や組み合わせ、コストなどがデータとしてあると良い。</p>
	<p>山川克則が入室。</p>
瀬川	<p>山川さんが来られたので、インカレスプリントの会計報告をお願いしたい。学連</p>

	幹事会決済も行う。
糸井川	会計について 岐阜県の補助金、学連補助金含め収支ゼロ程度。渉外費用、演出費用が大きかった。ロングとの併催前提での参加者見込みで、地図納期の適正化、運営効率化等により黒字化は実現可能。
山川	今年の収支が成り立ったのは、スプリント参加者数が大幅に増えたため。前述のように今年は補助金や幹事会決済を当てにしているので、健全化のためにはロング併催前提かつ一般参加者が今年程度あったうえでさらに参加費増額が必須である。
糸井川	ロングとスプリントの開催地が今回は近いので、行動が一緒の時には運営費の会計取扱の比率を変えられる。それでスプリント会計を安めに扱うことで対処している。それにはロング併催が前提。 スプリントの収入は選手権が約 100 人、学生一般が約 500 人、併設一般が約 100 人。学生一般の割合が高いので会計的にはそこに依存していて、運営上も選手権に比べて作業工数が少なく、大会継続のためには学生参加者の人数を安定させたい。 また、費用削減に関しては、要項 3 の印刷費用の情報を減らして削減を考えたい。インカレ規約、過去入賞者の削除を検討できないか。運営努力による支出削減(交通費・宿泊費・地図調査費等)は限界。一般的なスポーツ運営と比較し、無償奉仕が莫大なので考慮の余地がある。スプリントの収入は、参加費は確定だが、広告、地図販売、補助金などは不安定であるため、参加者増での参加費収入増が現実的。モデルイベント開催による収入も必須であり、参加費増額は黒字維持のためには必須。 以上について質問はないか。
瀬川	岐阜県の補助金について経緯を説明して欲しい。
糸井川	由来について説明する。岐阜県協会の協力の下、県に働きかけて頂いた。今年が特例である。OB のみでの組織では実現不可能。市街地スプリントの実現も岐阜県協会の功績。
瀬川	スプリント参加者数は、ロング参加者と比較してどの程度か。
糸井川	スプリント参加者数について、ロング参加者の 7 割程度となっている。競技性確保のためには人数の上限はある。なお、今年是一般の競技性は全く確保されていない。
山川	参加者の立入禁止区域への進入等も散見されたが、このようなことは他のテレインでは成り立たなくなるレベル。この場所特有といえる。クラス分割での参加者数上限の増加の余地はある。
木村	県の補助金とは具体的に何か。



山川	岐阜県のスポーツ振興基金のことである。県によって名称は異なるが、補助金を取りやすい県がいくつかある。全国レベルのスポーツ競技会を開催した場合の助成金である。これによって会計作業の厳密化が必要になった。
木村	スポーツ振興には福島県の復興助成、伊豆大島の宿泊補助、スキーO ではスポーツくじの toto からの助成などの前例がある。いつも適用されるとは限らない。
山川	収支のためには一般クラス参加者数を増やしたいが、時間的問題と渉外管理の問題からそれも難しい側面がある。各クラブでスプリントに関する教育を徹底してほしい。テレインクローズのリスクがフォレスト以上に常に付きまとうこと意識を共有してほしい。
糸井川	学連幹事会による決済額上限による、スプリント会計への赤字補填をお願いしたい。 要因は市街地のため渉外の工数が増加、地元との関係構築を重視した。当日が大垣市全体での授業参観日による会場利用時間の制約。初の市街地スプリント開催に際しリスク回避のため、地図内全戸 100 軒以上に挨拶を行った。 渉外全体で計 50 日。昨年は 23 日であり、想定を超えた。 YMOE 社の臨時休業による地図作成遅延に関しては、地図作成費用より差し引き済みである。
山川	GPS ベストレンタルに 1.8 万円、海外への返送で 1.3 万円。トラックビジョンレンタル 67 万円。トイレ 6 台に割高な 20 万円もかかったのは、道が狭く小さなトラックへの載せ替えが発生したため。
竹内	赤字補填額 20 万円以上は総会での承認という規約になっている。しかし 20 万円以下は幹事会承認で運用してきている経緯がある。ちょうど 20 万円は総会での決議となるが、この規約と運用に齟齬のある現状。
山川	規約作成時の議論では 20 万円まで幹事会となっていたはずで、規約の文章が間違っているのではないか。運用時から 20 万円で適用してきている。確認してほしい。しかし岐阜県の助成金の報告が遅れているため、一刻も早く承認いただきたい事情がある。
瀬川	これに関しては記録を遡って確認するが、今回幹事会では 20 万円で決を採りたい。後日、幹事長・会計・会計理事(齋藤)の間で事実関係の確認を行う。 赤字について質問がある。インカレスプリント実施に関わるガイドラインの 5 予算に関して、赤字が見込まれる前に見積もり提示が必要となっているが、これは行われていない。
糸井川	ガイドライン記載の見積もり提示が必要だったが、(→議事録公開時、会計資料添付)開催直前で支出が増加したため、事前の提示が不可能であった。会計がまとまって報告できる形での赤字の具体性が判明するにも時間は掛かる。ガイドラインに反してしまう形になってしまったが、ガイドライン自体も実態に沿って



	るかは怪しいため、見直しの必要があると考えている。
	全会一致(15)で 20 万円の補填を可決した。
瀬川	スプリントに関するほかの議題をしたい。担当理事の不在について、0.1 秒間隔の計時について、規約について考えたい。
糸井川	スプリント担当理事は未だ不在。山川さんに頼り切っている。
瀬川	0.1 秒単位の計時について技術委員の大西さんから連絡を受け取っている。はじめ 7 位とされた選手が同着で 6 位となった件について記憶に新しいと思う。0.1 秒単位の計時が実際は不可能であった。規則の修正が必要である。(技術委員会の関わる仕事)
糸井川	パンチングスタートとパンチングフィニッシュにすべきであった。
木村	世界選手権では 0.1 秒単位で行っているが日本では実現不可と判断したため 1 秒単位と規約に示した。日本では前提として Ecard 計時を想定していたため 0.1 秒に対応できない。また、光電管やゲートバースタートはスプリント予算内では厳しいものである。過去の世界選手権でもスタートバー、光電管計時、Ecard で行った。いまは SIAC を使えば比較的楽に対応できるようになった。
糸井川	運営内で 0.1 秒計時を求める声があったが、結果的に実現不可能であった。フィニッシュ管理は可能だったが、スタート管理が困難。スタートのフライング対策や厳密化など役員の負担増だが、運営の努力によっては可能かもしれない。規約は 1 秒単位のままで問題ないと思う。
木村	スポーツによって計時の厳密さが異なる。使用する技術や費用も考慮しなければならない。オリエンテーリングに関しては競技の特性上は現状で 1 秒単位までしか競技環境を整備できないと思う。

山川克則がこの議題中に入室した。

この議題終了後に小山が退出した。

### 3. セレ運営について

#### 要旨

セレ運営をできるだけ地域クラブと一緒にやって行い、できるだけ公認大会にする流れにしたい。現状ではクラブと学生が協働していくしかなく、JOA と学連との大会設計の枠組み改革は引き続き検討していく。

瀬川	<p>【資料 2】セレ運営について</p> <p>現在の競技者登録数のほとんどが学生であり、全日本大会の維持のためには、学生への働きかけが必要。全日本大会 E クラスにインカレに相当するような価値を据え、一方で併設クラス参加者も自分のレースに向き合える。そういった学生のターゲットレースの価値を生み出せないか。</p> <p>一方で、全日本 E 権に関係する公認大会が不足しており、学生が関わりにくく、インカレロング E 権付与の措置にも理解が薄い。</p> <p>また、公認大会を開催できるような地域クラブ、都道府県協会は限られている。学生にとって競技レベルが担保されていると見えるレースは主にインカレセレなどである。その両者の需給を噛み合わせられないか。先日の関東・北東学連ミドルセレでは京葉 OL クラブ主催の公認大会にて併設させていただいた。このような形で開催することで、運営リソースを無駄にせず活用できないか。</p> <p>各地区学連に 2 点現状を聞きたい。セレ運営などの OB の負担はどれぐらいか。運営協力可能な地域クラブは存在するのか。</p>
上野	<p>関東は OB1 年目の人数が多く、運営に足りている。今年は地域クラブ運営の京葉大会でミドルセレとした。</p>
坂野	<p>関東に OB の人数は多いが、一部の重役に負担が集中している側面もある。</p>
上野	<p>ミドルセレを開催した京葉 OL クラブに話を聞いた所、公認大会にすること自体は運営的に大きな負担はなく、むしろ参加が増えるメリットの方が大きいとのこと。</p>
山川	<p>しかし京葉大会をセレとして毎年開催するのは無理と考えていいと聞く。地域クラブの大会開催はたいてい数年の構想準備期間が必要である。</p>
西嶋	<p>東海は OB1 年目が主に運営している。前回のスプリントセレは地域クラブの OLC ルーパー主体で開催し、スプリントリレー併催で大会黒字化を見込んだ。OB の負担は大きいようには思えない。</p>
竹内	<p>東海のセレは前年含め、基本的には OB で回しているが、事足りてはいる。</p>
丸山	<p>北東はスプリント、ロングは OB1 年目運営で、ミドルは関東等と併催。地域クラブとは関わりが薄い。東北地方は県協会も機能していない。ほぼ OB 頼りとなる。</p>
小山	<p>北信越は関東、北東、東海等の併催としている。</p>

遠藤	関西は、ロング,ミドルは OB 運営、スプリントは OB 運営か、併催する大会を探す。関西はパーク O ツアーも多く、また地域クラブ等との日程調整の機会もあり、併催は容易。前回は OB に運営をお願いしたが、競技不成立が目立った以外にも運営の負担が大きいいように見受けられた。来年は外部委託とすることが決まっている。
糸井川	関西の若手 OB の意見としては、関西は OB の人数が少ないうえ、他地域への流出も多く、人を集める工夫をしている。OB はインカレ関連などの仕事も多く負担が大きいの声を聞く。スプリントセレの恒常的開催は厳しい。
瀬川	北東を除いて地域クラブがなくはない。インカレなども含め OB の仕事は多いので、セレ運営にリソースを割かれ疲弊させるのは良くないのではと思う。OB 主体でセレ運営を継続していくのは厳しい。また、全日本大会のためにも公認大会も増やしたい。
山川	学生の参加者にとって、これ以上重要な大会が増えるのは金銭的にも時間的にも厳しいと思う。運営にとっても公認大会やインカレセレなどリソースが分散している現状では、オリエンテーリング界全体として疲弊していく一方なので、リソースを無駄にしないよう、再編成が必要な時期に来ている。個人的意見としては、学生セレと公認大会を融合させれば良い。JOA 競技委員会で話されている公認大会の改革にも関わる。
瀬川	先日、JOA 競技委員会にオブザーバーとして参加した際の資料の要点をまとめているので、参照してほしい。 【資料 3】競技委員会メモ 全日本大会の改革とは別に、公認大会や E 権の改革が行なわれている。公認大会 A,B の種別廃止,公認料無料化,一般公認大会 E クラス廃止などの案が出ている。公認 E 権が廃止され、全日本大会 E 権が 1 段階で取得可能となる予定。併せて、取得条件も順位から相対タイムに変更予定。 学連出身者などで新しく競技委員会に入ってくれる方を募集している。
山川	JOA の方で公認 E 権が廃止、全日本 E 権取得条件が緩和されると、インカレロング E 権取得者が増えすぎる懸念がある。 先日の関東・北東ミドルセレではインカレセレクラス各 1 位に公認 E 権を付与するという措置があった。今後もこのようにインカレセレを公認大会の 1 クラスとして組み込む流れになると良いと思う。
木村	全日本大会等の旧制度について説明したい。 日本選手権大会は 1 年越しで行なわれていた。関東甲信越ブロック大会(朝日大会)に変わり、その後消滅)、中日ブロック大会(中日東海大会として現存)等のブロック大会。JOA 主催の東・西日本大会。その先に全日本大会が据えられていた。

	<p>種目はクラシック（現在の全日本ロング）のみ。E クラスが存在していたのは全日本大会のみであり、他大会の最上位クラスは 21A であった。全日本エリートクラスへの参加権は各年齢層の上位となるため若年層でも取れた。参加者数が多く、21A は 4 レーンまで分かれた結果、チャンピオンがわからないので選抜が必要になり、公認 E 権などが作られた。業界の規模縮小に伴い、複雑な制度が残り、このような話になったようだ。</p> <p>今回の技術委員会の改革案は、昔の制度に戻す形に近い。公認 E クラスを設定した流れとしては、参加者が多いあまり、最上位たる 21A クラスのレーン数が増え、大会の優勝者を確定できなかったため、21A より優位となる E クラスが必要となった。</p>
佐藤	<p>東海地域の昇竜杯や三河 OLC 大会、関東地域の茶の里いるま大会等地域クラブ運営での大きな大会は多く、インカレセレとの併設、公認大会化は可能と思う。ただ、大きな大会ほど開催時期や運営基盤が確立・固定化されているため、セレ共催・公認化に係る改革にあたり負担も大きい。</p> <p>時期的、地域的な公認大会の分散としては良いと思う。地域クラブの名義を借りて運営主要部に学生 OB が関わるという形で行うとなると、学生 OB の公認大会参加意欲と衝突もあるうる。</p>
山川	ほとんど学生 OB による運営だけど名前が地域クラブ、みたいに混ざれないか。
瀬川	いくつか思惑はある。OB なりたての際に地域クラブに運営協力すれば、その後地域クラブでオリエンテーリングを続けるきっかけになりうる。地域クラブが保有する地図を更新できるようになる。学生が来るようになれば大会参加者が稼げる。
山川	学業の傍ら、インカレという目標が既にある学生に対して、さらにもう一つ全日本大会、公認大会という別目標を望むのは難しい。セレを公認大会と融合すれば誘導しやすい。
瀬川	全日本大会というだけでは公認大会に対して学生の注目を集められていない現状がある。他地区のインカレセレを併設すれば競技性も担保され、学生の参加意欲につながる。
山川	全日本スプリントについても、先の長野県(大町・CC7 前日)では採算が取れていない。WE では予選全通過となるなど E 権取得者の不参加も多く、参加者の減少が著しい。カテゴリ S の公認大会開催地の偏りも影響している。学連出身者からコントローラも増えているので、彼らを活かし公認大会を増やし、学生参加者を増やしてほしい。
木村	JOA ではそれらを再編できるようにワーキンググループが動きはじめている。若い人の力や業者も含めて都道府県協会改革をしたい。
糸井	これからのセレ運営に関して、若手 OB と地域クラブが共に運営するのが前提だ

川	と思うが、公認大会とする際は事前の公認大会申請が必要となるため、地域クラブに事前の打診が必要となる。その調整のシステムが必要となる。公認大会に必要な公認コントローラの数・所在を地域ごとに把握するシステムも必要となる。
糸井川	若手 OB が運営に参加することで、試走の際、学生トップレベルに近いタイムを出すことができ、地域クラブの弱みとなりがちな大会の競技性の担保に繋がる。
遠藤	現状として、公認大会を開催するメリットが薄い。参加者は増えても公認料のために参加費が上がる。関西ではカテゴリ S の公認大会が多く、E 権の価値が低下している。価値担保の意味でも公認大会の地理的分散を行うべき。 コントローラが少数という問題はあるが、報酬など明確なメリットが無い一方、競技不成立で傷がつくこともあり、コントローラ取得の魅力は薄い。
山川	昔はコントローラへの報酬が存在したが、現在はなくなっている。
坂野	コントローラの制度改革は行なわれるのか。報酬を払う他、なりやすくするなどメリットをつけることは可能か。
山川	それを变えるのは現状でせいっぱいやって、それが厳しいことを示さなければならぬ。次回全日本スプリントは大人数を E クラスに出走させたい。
瀬川	改革を促すために、改革が必要となる状況を作るべきか。
木村	JOA の指導員資格の改革は計画中である。日本体育協会の資格に紐付ける形で変わる可能性が出ている。コントローラがどう関わるかは未定。

遠藤が退出した。

#### 4. 全日本大会とロングセレについて

##### 要旨

2018 年度までの全日本 E 権保持者はロングセレ免除の制度があったが、人数増加により再考基準を越えたため制度の撤廃が決定された。2019 年度については全日本 E 権保持者がセレよりも全日本大会出場を選んだ場合には推薦で通りやすい形にするよう地区学連へお願いする。2020 年度以降の日学の方針は、JOA 側の決定を待ってから再度策定する。JOA と学連は全日本大会とインカレに関して協調して制度設計する必要がある。

瀬川	<p><b>【資料 4】全日本大会とロングセレについて</b></p> <p>「全日本大会とロングセレ併催」「全日本 E 権保持者はロングセレ免除」時にいくつかの問題を抱えている。</p> <p>「全日本 E 権保持者のロングセレ通過を地区学連枠内に含める」という方向性で議論を進めていたが、そもそも「全日本大会とロングセレ併催」自体について学生からも理解が得られていない。そこで、「全日本 E 権保持者はロングセレ</p>
----	--

	<p>免除」というルール自体を撤廃して白紙に戻す提案をした所、山川様からは「すぐには撤廃すべきでない」と反対された。</p> <p>一方で、大西様(技術委員会)からは「地区学連枠内での通過」には賛成いただいたが、それを越える分に関しては「簡単に選手権参加者を増やすべきでない」との意見をいただいた。</p> <p>結局のところ、多方面で同意を得られる形はなく、インカレ選手権クラスの格とオリエンテーリング界の未来を見据えた折衷案が必要となる。</p>
瀬川	<p>現行の問題は以下の通り。</p> <p>1つ目。公認大会がミドルの大会ばかりで、ミドルの大会でインカレロングの E 権が取得できるというおかしな状況。</p> <p>2つ目。E 権保持者の増加。実績枠と全日本 E 権での通過者が多数。当初の想定である 5 人を上回っている。これは今回の制度改革により学生が全日本 E 権を狙うようになった形と思われる。これだけ多数の選手権参加者を抱えることは運営的に厳しいので、現行のルールでは継続ができない。</p> <p>3つ目。2019 年度以降の全日本大会の動きが未だ不透明。「全日本 E 権によるロングセレ免除」のルールは一時的なものとして動き出しており、今後の全日本大会の動きによっても変える必要がある。</p>
瀬川	<p>現行の規則では、地区ごとのインカレ選手権枠が一度減ると取り戻しにくい形となっている。そのように地区学連の枠がごく少数の場合に、その枠が全日本 E 権取得者で埋まって良いのだろうか。この現状に関して別にルールを決めるのも煩雑である。</p> <p>制度改革により学生が全日本大会に参加するようになってきている現状を受ければ、「全日本 E 権取得者の通過」というルールに関しては撤廃しても良いのではないか。</p>
瀬川	<p>衰退しつつある公認大会や都道府県協会に対する特効薬として、このルールによる学生の公認大会参加は一定の効果を発揮したため、すぐに撤廃するとルール制定前の状況に戻るリスクもある。</p>
木村	<p>JOA の競技委員会にて公認大会の制度改革が行われ、全日本 E 権取得が容易となる。そのため、E 権取得者が大幅に増加し、このルールは機能しなくなる。</p>
瀬川	<p>JOA 側も制度改革が行われる中、日学側が JOA の後追いで制度を変えても、二者が足並みを揃えて望まなければ食い違うだけである。そのため、一度このルール自体を撤廃してしまえば良いと考えた。しかし制度をなくすと学生の全日本人気は下火に戻ってしまう懸念もある。</p>
山川	<p>学生のターゲット大会としてインカレと全日本大会が同じ方向を向いていくようにしたいというのが全日本大会改革の趣旨。未だ道半ばだが、二者を分割して考えるとリソース不足になるのが現状。</p>



坂野	インカレセレ制度の改革をするのはどうだろうか。JOA、日学の二者の E 権を共存させるためには、片方の制度に合わせる必要が出てくる。地区学連による枠配分の制度自体の流動性が低いので枠制度の見直しを図り、インカレ選手権資格を日学公認大会の下で取得できるというような形にするのはどうか。
瀬川	枠制度は一長一短ではあるが改革を行うのは難しい。現行の地区内でのセレは、遠征の必要がなく参加しやすいメリットもある。
木村	セレ免除制度を試行してみたところ上手く行かなかったのだから、これは廃止してしまえばよいのでは。
坂野	5 人が再考のトリガーではあったが、その際の議論には技術委員会の推薦として 5 人以下を選ぶことも考えたと思うがどうか。
木村	1 年目で 5 人を超えてしまった。制度設計に無理があったと捉えるのが妥当。取りやめるのはトライアンドエラーのエラーと捉えて修正すべき。
瀬川	セレ免除制度の廃止方向に進む手続きを次回の総会までに急ピッチで進める。3 月の幹事会までに行いたい。
山本	学生の全日本 E 権取得者を増やす方向性とインカレ出走者上限の方向性が食い違う。
西嶋	全日本 E 権取得者をセレ通過させるかを地区学連内の諮問委員会の話し合いで決定、推薦の形で通すのはどうか。これなら、このセレ免除制度は廃止しても問題ない。ただ、諮問委員会・推薦制度は関西ぐらいでしか機能していない。
木村	全日本大会と地区学連セレが別な場所で同日開催の場合に全日本に来てほしいからこの制度が立ち上がった。このような場合でも全日本に参加するようお願いしていくしか無い。セレより全日本を選んだ場合に推薦で通りやすい形にするようお願いするしかない。
瀬川	「全日本 E 権取得者のロングセレ通過」というルールに関しては今後撤廃の方針で検討していく。
坂野	現状では全日本を選んでも推薦で通る保証はなく、セレを選ぶ可能性が高い。地区学連がこの制度を受け入れにくい形になる。ガイドライン等は策定しないのか。
木村	2019 年度に向けて全日本の改革が行われるためガイドラインの策定も無駄になる。
瀬川	日本学連の方針は、JOA 側の決定を待ってから再度策定する。

臼井、遠藤が退出した。

## 5. 加盟校費について

## 要旨

会計的に妥当な加盟校金を検討した。各地区学連との規約と整合性を確認した。加盟登録費は人数比例分のみで、学校ごとののは 0 円としたい。規約を成文化し次回総会で承認を得たい。

佐藤	<p>【資料 5】加盟校費検討資料</p> <p>赤字要因は活動報告書、幹事会交通費である。いずれも臨時幹事会が生じたり議題が多いと赤字につながってしまう。</p> <p>ICS の赤字が続くと想定し、100 万程度のプール金が必要だが、この額の支出を維持できるのは 12 年である。それまでには制度の改革もされていなければならぬので今回加盟校費を 0 円にすることは問題ない。</p> <p>大幅な赤字は 1 回あることを想定している。</p>
竹内	<p>【資料 6】加盟校費一覧&amp;メイン収入</p> <p>貸し付け&amp;黒字は貸し付け分含むので、黒字は差し引き額となっている。</p> <p>近年は ICS 赤字を見込んでも加盟校費の黒字における割合は数%にとどまり、0 円としても問題ないといえる。加盟校費を一度廃止した場合、再度復活させるのは困難と思われるため、半額とする策もありかと思う。</p>
塩平	赤字となった年は、臨時幹事会等特殊な理由のときのみ。収入における割合としてみれば黒字の相対割合よりもさらに微々たるものとみなせる。
瀬川	メインの収入は何なのかといった点に注目してこなかったので注意したい。今後は意識したい。個人加盟金と地図収入が大きな割合であった。
山川	矢板地区の地図収入はインカレ開催等により一定額確保可能。2 年に 1 度のペースで矢板でのインカレ開催なので、収入として安定する。新機軸事業での額増加はありうる。
佐藤	収支が厳しくなったときは、加盟校被復活ではなく、個人加盟金増額で対応すれば良いのでは。そちらの方が手続きも簡単となる。
瀬川	金銭的には十分余裕があるので問題は無い。あとは、加盟校としての価値次第。総会でアンケートを取った際も 0 円とすることに賛成多数であった。事務局負担の軽減も考慮し、加盟校費 0 円とする方向で進める。春インカレ総会で決を採る。
吉澤	加盟登録のデジタル化に伴い、規約に記載の加盟登録名簿が制度としてなくなり、規約と実態が食い違っている。各地区学連に確認を取ったところ、規約改正を急ぐ必要は無いとのことだったので、ひとまずは変更せず現状維持。
瀬川	加盟校基準は 3 人以上としたが、その移行措置をどうするか。新規加盟校の地区学連総会での承認時期に注意したい。

瀬川	次会幹事会で規約案確認,春インカレ総会で決を採る。 現準加盟校で基準を満たす大学は来年度最初の地区学連総会で承認を行うので、次期地区学連幹事長は備えておくこと。
----	---

## 6.事業計画について

山川	東工大大会は開催予定。これを機に次世代マッパーに移行開始。事業計画に関する様式策定中。
瀬川	様式策定中とのことだが早く策定していただきたい。契約金額の妥当性を固めていきたい。
瀬川	事業計画と呼んでいる、日本学連が地図作成のために支出を行うこの事業の分かりやすい名称をずっと募集しているが案はないか。
坂野	新規地図事業計画はどうか。
瀬川	銀行等に提出する書類にも記載でき分かりやすい。「日本学連新規地図事業計画」に名称決定とする。

## 7.技術委員会の今後について

### 要旨

学生技術委員の設置によって技術委員会の安定と負担軽減を図ることとする。引き続き技術委員会の活動と学連合宿の継続について検討する。

瀬川	<p><b>【資料 7】 技術委員会について</b></p> <p>学連合宿開催に対して動きが止まっていたり、選手権枠の公開の遅れていたりがあある。新規委員が数年入っていない。</p> <p>学連合宿を再び継続して開催できるようにしたい。各クラブによってリソースが異なるので、平等に機会を与えたいため。昨年度 0 回であったため、今年度は 2 回開催を計画。</p> <p>各加盟校から技術委員会に 1 人出す、というルールが口頭であったが明文化されていなかったため廃れた。今年度第 2 回学連合宿に際し、各地区学連より 1 人ずつ声をかけた。今回の学連合宿では交通費支給や運営者たちも練習できるような</p>
----	---

	形とした。加盟校 1 人では残らない可能性もあるので、各地区学連よりやる気のある人材を 1 人ずつ派遣するのはどうか。これをルールとしてよいか。 関連して、技術委員会に関する仕事を請け負う、連絡などやり取りをする幹事会の役員を一人増やしてはどうか。
木村	学生が技術委員になれば良いのではないか。幹事ではないが技術委員の一人の立場として幹事会に出席してもらおう。
瀬川	技術委員の役割や活動が幹事会で把握できないのは問題なので、学生が参加するのはとてもいいと思う。他に案はないか。
山本	技術委員会の世代交代はどのように行っているのか。学連合宿は 1 年毎にメンバーが変わっているように思う。
瀬川	合宿運営に関しては世代交代していつている。毎年インカレのアドバイザーや合宿運営で技術委員の人数は増加しているようだが、実態として引き継ぎなどの様子は見られない。
木村	技術委員会の大切な役割にインカレ開催の品質担保がある。実行委員会形式の大会にも、学連派遣のイベントアドバイザーがついている。学連が認めた技術委員会が認証した大会がインカレであるという繋がりを持っている。その技術委員会が機能していないのはインカレの質に関わってくる重要な問題。
山本	ほかにどのような役割があるか。
瀬川	技術委員会のメインの作業は、学連合宿に関して OB との連携、選手権枠計算。渉外などの実務やシード選手選考は OB 任せになる。予算は現在で 2 万円程度なのだが、幹事長・会計間で調整するが、必要な予算を申請してくれば余裕はある。
瀬川	学連合宿には、スプリントの競技リテラシーの向上策も担って欲しい。スプリント合宿、合宿夜メニュー。同様にドーピングの講習等。競技全体の質に関わる。新 3 年生または 4 年生に学生技術委員をしてもらえないか探したい。現 4 年生も技術委員へ関わって欲しい。

## 8.学連発足 35 周年に向けて

瀬川	今年でおそらく 33 周年になる。引き続き案を募集する。学連幹事でやりたいことをやってみれば良いと考えている。個人的な意見だが、インカレの記録やエピソードや地図、トレイン紹介などを冊子にして記念品とできないか。私が幹事長を引退してからそういったものを作る委員会を立ち上げるとか、そういうことになるかもしれない。
----	---

## 9.後援大会申請について

吉澤	幹事会までに届いた後援大会の承認を行う。6月3日の第40回東大OLK大会から連絡が来ている。公認大会の申請中とのこと。
	第40回東大OLK大会の後援を全会一致(11)で承認

## 10.理事会報告

木村	インカレスプリント・ロングのシード選手を決定した。
山川	インカレスプリントの担当理事はまだ決まっていない。
山川	春インカレの女子優勝カップと男子の優勝旗について業者に修繕依頼を行った。見積もりと注文が終わったので学連会計に請求する。

## 11.各部局活動報告

瀬川	各部局長は前回幹事会以降の活動報告をしてください。
堀江	渉外部は矢板・日光地区に回覧書を郵送した。2月10日から3月10日間の練習会についてはこれから準備し郵送予定。
吉澤	第7回KOLC大会、第34回ウェスタンカップリレーの後援承認書を発行した。第40回東大OLK大会の後援承認書も発行予定。
坂野	前回幹事会の議事録が間を空けず発行することができた。日学HPの整備として、新歓ページの作成及びスキーO日本代表について更新を行った。「いぶき」については作成中。
矢野	第3回幹事会をスキーO委員会とジョイントして開催し、宿泊・参加者交通の取りまとめを行った。近日中に後夜祭・講習会の要項を公開予定。次回幹事会の参加・宿泊・交通の取りまとめを行う予定。
臼井	(退出前に報告済) 春インカレの観戦ガイドを作成予定で、各大渉外に協力をお願いする。
竹内	12月31日の2017年度加盟員登録締切にあたり、登録費の追加振込を確認した。

## 12.地区学連活動報告

瀬川	各地区学連幹事長は前回幹事会以降の活動報告をしてください。
竹内	関東学連は12月17日にミドルセレを開催した。今後としては、2月4日の山リハリレーに関東学連団体戦を併設、2月20日に関東学連総会を開催予定。
西嶋	東海学連は秋インカレにて臨時総会を行い、全日本をロングセレと併催するかを決定した。12月23日から25日にかけて冬合宿を開催した。12月23日は練習会と総会、24日はミドルセレクション、25日は静名戦を開催した。今後としては、3月17日に総会を開催予定。
丸山	北東学連は12月17日に京葉OLクラブ40周年記念大会にミドルセレを併設し、第3回総会を開催した。
山本	中九四学連は、12月9日に広島大学・岡山大学で合同練習会を開催し、第2回幹事会を開催、その場でセレクション規約を作成した。12月17日に関西学連ミドルセレにミドルセレを併催した。規約に基づき女子地区学連枠の返上を行った。今後としては、1月中旬と2月末に合同練習会を開催予定。 今年度インカレリレーにて男女1名ずつ余っているの、一緒に組んでくれる方を探している。
小山	(退出前に報告済) 北信越学連は12月17日に関西学連ミドルセレ、12月24日に北東学連ミドルセレにそれぞれミドルセレを併設し、1月12日から14日にかけて新潟大学主導で北信越学連合宿を行った。今後としては、ロングセレについての決定を急ぐ予定。
遠藤	(退出前に報告済) 関西学連としては、10月4日に臨時総会を行い、全日本大会のロングセレ併設に関する方針案を作成、11月11日の秋インカレ時の日本学連総会にて関西学連規約改正を承認、12月17日に関西学連ミドルセレを行い、あわせて第4回総会を開催し、その場にて全日本大会ロングセレ併設の決定、関西インカレ独立開催の決定、新規ロングトレイル開拓計画の策定を行った。今後としては、1月27日に近畿OL連絡会に出席、2月11日に第5回総会を開催、2月18日にウェスタンカップリレー大会を開催予定。

## 13.次回幹事会について

瀬川	次回総会は3月8日木曜日にファミテックにて開催予定。
----	----------------------------